
住民意識調査に基づく地域犯罪予防の課題抽出 ー神奈川県都筑警察署との協働事例¹ー

日本大学危機管理学部 教授 木村 敦

- I はじめに
- II 協働プロセス
- III 調査実施
- IV 結果と考察
- V まとめ

I はじめに

本論文は、日本大学危機管理学部の地域連携・地域貢献活動の一環として、2023年9月から2024年3月にかけて神奈川県都筑警察署と協働した「居住地域の治安等に関する意識調査」の結果について報告するものである。本学の地域連携活動の事例報告として、調査内容に加えて協働の経緯や学生参画を中心とした協働プロセスについても簡潔に紹介する。

II 協働プロセス

1 経緯

2023年9月に神奈川県都筑警察署から日本大学危機管理学部に対し「犯罪等に関する意識調査等に関する協力について」の依頼があった²。都筑警察署は同年上半期におけるサイバー犯罪、街頭犯罪（自転車盗、痴漢等）の犯罪発生件数や相談件数の増加を踏まえ、地域住民に対しこれらの犯罪や「体感治安」(subjective security) 等に関する意識調査を実施し今後の治安対策として活用することを計画していた。なお、調査実施に際しては都筑警察署が地域協定を締結した株式会社オーケーの「オーケーネットスーパー」³を利用する住民を調査対象者とするものであった。この意識調査において今後の治安対策に活用できるような質問項目の検討に関する助言が本学部への主たる依頼内容であり、心理調査に関する専門性を鑑み筆者が担当することとなった。都筑警察署からの提案により筆者のゼミナール学生も有志で参画することとなり、ゼミナール内で募集したところ、3年生3名、2年生5名の計8名から応募があった。その8名に対し改めて説明を行った上で参加同意を得てから活動を実施した⁴。

2 活動概要

都筑警察署からの依頼内容は、今後の治安対策に活用できる住民意識調査用質問項目の提案であった。体感治安等に加え、とくにサイバー犯罪と街頭犯罪（自転車盗、痴漢）に着目した内容としたいとのことであった。そこで、8名の学生を「体感治安等」（3年1名・2年1名）、「サイバー犯罪」（3年1名・2年2名）、「街頭犯罪」（3年1名・2年2名）の3つのグループに分け、それぞれのグループが中心となり調査計画や質問項目案の作成を行うこととした。筆者は調査実施責任者並びにゼミナール指導教員として本プロジェクト全体の監督・監修を担当した。協働期間中は月に1~3回程度、学内でサブゼミとして集まり、各グループの調査計画や進捗の報告とディスカッションを行った。また、10月には都筑警察署の担当者との打合せを2回実施し、質問項目や調査実施スケジュールを検討した。その後、学内の研究倫理委員会による承認を経て調査を実施した。調査データ回収後はグループで作成した調査計画に基づき筆者が統計ソフトウェアを用いてデータ解析を行い、学生が自身のグループの結果に基づいて考察と報告を行った。

本プロジェクトの都筑警察署への報告として、まず令和5年度第4回都筑警察署協議会（2024年2月26日開催）にて調査概要・調査計画の報告を行った。その後、令和6年度第3回都筑警察署協議会（2024年12月17日開催）にて調査結果の報告と今後の治安対策に関する提案を行った⁵。

3 調査計画

(1) 体感治安等

本研究で用いた体感治安等に関する質問項目を図表1に示す。山本・島田（2016）⁶によると、体感治安は日本全体あるいは居住地域の治安に関する主観的評価であり、個人あるいはその同居家族を含め犯罪被害への不安の度合いである「犯罪不安」（*fear of crime*）とは異なる概念であるという。そこで本研究では、居住地域の治安に関する主観的評価としての体感治安を測定する項目を用いることとした。

個人の犯罪被害に関するリスク認知においては、自己のリスクを過小視する「楽観バイアス」（*optimistic bias*）が生じる可能性があることから⁷、犯罪被害に関する相対的リスク評価を測定して楽観バイアス得点を算出し⁸、体感治安との関連を分析することとした。また、体感治安に影響を及ぼす要因を検討するため、地域犯罪予防の各参与者（自分自身、地域住民、警察・行政）が地域の犯罪予防にどの程度協力していると思うか（防犯協力度認知）、犯罪予防のための各取り組み（地域住民による防犯パトロール、地域住民による地域美化活動、防犯カメラ設置、警察による防犯パトロール）に対する効力感（防犯効力感）を測定することとした。

(2) サイバー犯罪

本研究で用いたサイバー犯罪に関する質問項目を図表2に示す。サイバー犯罪に関する都筑警察署内での相談件数の増加を踏まえ、地域住民のサイバー犯罪に対するリスク認知や、知識・対策行

図表 1 体感治安に関する質問項目

項目名	質問文
体感治安	あなたがお住まいの地域は、治安が良いと思いますか、悪いと思いますか。 7:とても良い, 6:良い, 5:やや良い, 4:どちらともいえない, 3:やや悪い, 2:悪い, 1:とても悪い
犯罪被害の 楽観バイアス	あなた自身が、何らかの犯罪被害に遭う確率は、同世代・同性の一般的な他者と比較して 高いと思いますか、低いと思いますか、同じ程度だと思いますか。 1:とても高い, 2:高い, 3:やや高い, 4:同じ程度, 5:やや低い, 6:低い, 7:とても低い
防犯協力度認知	
自分	あなた自身は、地域の犯罪予防に協力したいと思いますか。
地域住民	地域住民は、地域の犯罪予防に協力していると思いますか。
警察・行政	警察や行政は、地域の犯罪予防に力を入れていると思いますか。
防犯効力感	
住民パトロール	地域住民が防犯パトロールを行えば、地域の犯罪は減少すると思いますか。
美化活動	地域住民が地域の美化活動を行えば、地域の犯罪は減少すると思いますか。
防犯カメラ	防犯カメラが設置されれば、地域の犯罪は減少すると思いますか。
警察パトロール	警察が防犯パトロールを行えば、地域の犯罪は減少すると思いますか。

※ 図表 1～4において、回答選択肢の記載のない項目は以下の 7 段階評定を用いた。7:とてもそう思う, 6:そう思う, 5:ややそう思う, 4:どちらともいえない, 3:あまりそう思わない, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない

動の有無を把握するための質問項目を中心に構成した。

サイバー犯罪に対するリスク認知についても、楽観バイアスによる自己リスクの過小視が生起するかどうかを検証することとした。また、リスク認知に知識や対策行動が及ぼす影響を明らかにするため、サイバー犯罪に関する自身の知識・対策行動・情報入手経路をそれぞれ測定した。また、フィッシング詐欺に関しては春田他 (2023)⁹ を参考に作成した URL 真偽判断課題を実施し、知識に基づく真偽判断ができるかどうかを検証した。

犯罪者に対するステレオタイプ¹⁰が、リスク認知や対策行動に影響を及ぼす可能性もある。そこでサイバー犯罪者のステレオタイプの認知を把握するために、インターネットを利用した犯罪者の典型的な人物像に関し、性別、年代、国籍、個人／組織犯、計画性、知性についてそれぞれ測定した。

(3) 街頭犯罪

街頭犯罪については、都筑警察署からの依頼に基づき自転車盗と痴漢に着目して調査を行うこととした。本研究で用いた自転車盗に関する質問項目を図表 3 に、痴漢に関する質問項目を図表 4 にそれぞれ示す。なお、地域の治安に焦点を当てた調査であることから、痴漢については電車・バス内等を除く街頭での痴漢に限定することとした。

自転車盗に関する調査は、現在自転車を所有している者を対象とした。まず、自転車の施錠行動について、自宅、駅の駐輪場等への長時間駐輪、スーパーやコンビニ等への短時間駐輪の場面別に測定した。また、施錠しない状況の有無について別途回答を求めた。次に、施錠行動に影響を及ぼす要因を明らかにするために、自転車の使用年数、点検・メンテナンス頻度、防犯登録の有無、自転車盗難被害のリスク認知について測定した。自転車の防犯登録については有効期限があることがあまり知られていないという調査結果もあることから¹¹、有効期限の知識についても測定すること

図表 2 サイバー犯罪に関する質問項目

項目名	質問文
自己看破効力感	あなたは、詐欺のメールが届いた際に、詐欺と見破ることができると思いますか。
相談相手	あなたは、詐欺あるいは詐欺かもしれないメール等が届いた際に、誰に相談すると思いますか。あなたが相談する相手として当てはまる人をすべて選択してください。1:家族, 2:友人等, 3:警察, 4:消費者センター, 5:その他, 6:相談相手がいない, 7:誰にも相談しない
フィッシング詐欺知識	あなたは、「フィッシング詐欺」について知っていますか？ 1:どのような犯罪か知っている, 2:聞いたことはあるが、どのような犯罪かは知らない, 3:聞いたことがない
フィッシング詐欺被害リスクの楽観バイアス	あなたが「フィッシング詐欺」の被害に遭う確率は、同世代・同性の一般的な他者と比較して高いと思いますか、低いと思いますか、同じ程度だと思いますか。 1:とても高い, 2:高い, 3:やや高い, 4:同じ程度, 5:やや低い, 6:低い, 7:とても低い
URL正誤判断課題	以下のようなメールは、正規のメールか詐欺のメールか、どちらの方が可能性が高いと思いますか。実際に検索はしないで教えてください。 運転免許更新時の認知機能検査、オンライン予約はこちらから https://onl.bz/Fejg3fc 1:正規, 2:詐欺
判断根拠	上の設問に対する回答について、判断の根拠となった情報は何か。 1:文面, 2:URL, 3:その他, 4:勘で回答した
サイバー犯罪手口知識	以下に挙げる犯罪について、どのような手口の犯罪であるかご存じのものがあれば、すべて選択してください。 1:ワンクリック詐欺, 2:サポート詐欺, 3:フィッシング詐欺, 4:偽警告, 5:偽通販サイト, 6:ランサムウェア, 7:どれも知らない
サイバー犯罪対策行動	あなたがインターネットを利用した犯罪の被害に遭わないために日ごろから行っていることがあれば、すべて選択してください。 1:アカウントのパスワード変更, 2:ファイアウォール導入, 3:ソフトウェア更新, 4:有害ブロックソフト, 5:電話番号を検索してみる, 6:不審なメールを開かない, 7:その他, 8:特にない
サイバー犯罪情報入手メディア	あなたは、詐欺の被害に遭わないために、手口や対策に関する情報を入手していますか。当てはまるものをすべて選択してください。 1:警察や自治体のホームページ, 2:チラシやパンフレット, 3:新聞・雑誌・書籍, 4:テレビ・ラジオ, 5:SNS, 6:インターネットや電子メール, 7:口コミ(人から聞く), 8:その他, 9:入手していない
サイバー犯罪の犯行者ステレオタイプ	
インターネットを利用した犯罪を行うのはどのような人物である場合が多いと思いますか。	
性別	1:男性, 2:女性, 3:性別に偏りはない
年代	1:10代, 2:20代, 3:30代, 4:40代, 5:50代, 6:60代, 7:70代以上, 8:年齢に偏りはない
国籍	1:日本人, 2:外国人, 3:国籍に偏りはない
計画性	7:とても計画的, 6:計画的, 5:やや計画的, 4:どちらともいえない, 3:やや場当たりの, 2:場当たりの, 1:とても場当たりの
知性	7:とても知的, 2:知的, 3:やや知的, 4:どちらともいえない, 5:あまり知的でない, 6:知的でない, 7:まったく知的でない
個人犯/組織犯	1:個人犯, 2:組織犯, 3:どちらともいえない

とした。自身の自転車が盗難被害にあった際の行動意図として、「見つかるまで探したい」、「犯人を捕まえたい」、「新しい自転車に買い替えたい」の各行動意図を測定した。自転車盗難の犯罪者ステレオタイプを把握するために、犯罪者の典型的な人物像に関し、性別、年代、国籍、個人／組織犯、計画性、知性、犯行理由、犯行時間帯、居住地域についてそれぞれ測定した。

痴漢に関する調査は、痴漢を含む女性の犯罪被害不安に関する民間調査¹²を参考とし10代～30代の女性を対象とすることとした。街頭痴漢に関するリスク認知、対策行動、犯罪者ステレオタイプを中心として測定することとした。なお、リスク認知に関しては、「自分は痴漢の被害にあう確

図表3 自転車盗に関する質問項目

項目名	質問文
使用年数	現在の自転車の使用年数 1: 1年未満, 2: 1年以上～3年未満, 3: 3年以上～5年未満, 4: 5年以上～10年未満, 5: 10年以上
メンテナンス頻度	あなたは、普段から自転車の点検やメンテナンスを行っていますか。 1: よくしている, 2: たまにしている, 3: あまりしていない, 4: まったくしていない
施錠行動	
自宅	あなたは、自転車を自宅に駐輪する際に施錠をしていますか。 1: 必ずしている, 2: ほとんどしている, 3: たまにしている, 4: あまりしていない, 5: まったくしていない
長時間駐輪	あなたは、自転車を駅の駐輪場等に長時間駐輪する際に施錠をしていますか。 (選択肢同上)
短時間駐輪	あなたは、自転車をスーパーやコンビニ等の駐輪場に短時間駐輪する際に施錠をしていますか。 (選択肢同上)
施錠しない状況	あなたが、自転車を駐輪する際に施錠をしない状況があれば、どのような状況かあてはまるものをすべて選択してください。 1: 急いでいるとき, 2: 駐輪時間が短い場合, 3: 防犯カメラがある場所, 4: 見通しがよい場所, 5: 人通りが多い場所, 6: 人通りが少ない場所, 7: 周囲の自転車も施錠されていない場合, 8: 施錠するのが面倒なとき, 9: その他, 10: 必ず施錠する
自己の盗難被害リスク認知	あなたは、自分の自転車が盗難のターゲットとして狙われやすいと思いますか。
対処行動意図	あなたは、もし自分の自転車が盗難に遭った場合、どのような行動を取ると思いますか。 当てはまるものをすべて選択してください。 1: 付近を探索する, 2: 警察に被害を届出る, 3: SNS等で探索の協力を呼びかける, 4: オークションサイト等を監視する, 5: その他, 6: 探さない
自転車盗難被害時の対処行動意図	
搜索	あなたは、もし自分の自転車が盗難に遭った場合、「見つかるまで探したい」と思いますか。
犯人逮捕	あなたは、もし自分の自転車が盗難に遭った場合、「犯人を捕まえたい」と思いますか。
自転車買替え	あなたは、もし自分の自転車が盗難に遭った場合、「新しい自転車に買い替えたい」と思いますか。
防犯登録	あなたは、ご自身の自転車の防犯登録をされていますか？ 1: している, 2: していない, 3: わからない
防犯登録期限	自転車の防犯登録には有効期限があることを知っていますか？ 1: 知っており、有効期限も把握している, 2: 知っているが、有効期限は把握していない, 3: 知らない
自転車盗の犯行者ステレオタイプ	自転車盗を行うのはどのような人物である場合が多いと思いますか。
性別	1: 男性, 2: 女性, 3: 性別に偏りはない
年代	1: 10代, 2: 20代, 3: 30代, 4: 40代, 5: 50代, 6: 60代, 7: 70代以上, 8: 年齢に偏りはない
国籍	1: 日本人, 2: 外国人, 3: 国籍に偏りはない
計画性	7: とても計画的, 6: 計画的, 5: やや計画的, 4: どちらともいえない, 3: やや場当たりの, 2: 場当たりの, 1: とても場当たりの
知性	7: とても知的, 2: 知的, 3: やや知的, 4: どちらともいえない, 5: あまり知的でない, 6: 知的でない, 7: まったく知的でない
個人犯/組織犯	1: 個人犯, 2: 組織犯, 3: どちらともいえない
居住地域	1: 犯行現場と同じ地域に居住している, 2: 犯行現場と近隣の地域に居住している, 3: 犯行現場から遠方の地域に居住している, 4: 居住地域に偏りはない
盗難理由	自転車の盗難を行うのはどのような理由である場合がもっとも多いと思いますか。 1: 自分で所有するため, 2: 移動して乗り捨てるため, 3: 車体や部品を転売するため, 4: 嫌がらせや気晴らしのため, 5: 自分の自転車と勘違いしたため, 6: その他
時間帯	自転車の盗難はどのような時間帯に行われる場合がもっとも多いと思いますか。 1: 早朝, 2: 午前, 3: 午後, 4: 夕方, 5: 夜, 6: 深夜, 7: 時間帯に偏りはない

図表 4 痴漢に関する質問項目

項目名	質問文
痴漢被害リスクの楽観バイアス	あなたが街頭（電車・バス内等を除く）で痴漢の被害に遭う確率は、同世代・同性の一般的な他者と比較して高いと思いますか、低いと思いますか、同じ程度だと思いますか。 1: とても高い, 2: 高い, 3: やや高い, 4: 同じ程度, 5: やや低い, 6: 低い, 7: とても低い
痴漢遭遇確率の楽観バイアス	あなたが街頭（電車・バス内等を除く）で痴漢の犯人に出くわす確率は、同世代・同性の一般的な他者と比較して高いと思いますか、低いと思いますか、同じ程度だと思いますか。 (選択肢同上)
痴漢対処可能性の楽観バイアス	あなたがもしも街頭（電車・バス内等を除く）で痴漢に遭遇した際に自ら被害回避する（逃げる・撃退する）確率は、同世代・同性の一般的な他者と比較して高いと思いますか、低いと思いますか、同じ程度だと思いますか。 (選択肢同上)
痴漢対策行動	あなたは、犯罪の被害に遭わないように外出時・歩行時に普段からどのようなことに注意していますか。当てはまるものをすべて選択してください。 1: 防犯ブザーを身につける, 2: 人通りの少ないところは通らない, 3: 危ないとされているところに近づかない, 4: 夜遅く出歩かない, 5: 夜は一人で行動しない, 6: 夜は誰かに迎えに来てもらう, 7: バッグを車道と反対側に持つ, 8: 歩きスマホをしない, 9: 後ろや周囲を気にしながら歩く, 10: イヤホンをしながら歩かない, 11: 通話しながら歩く, 12: 護身術を習う, 13: その他, 14: 特に注意していることはない
歩行時イヤホン	あなたは、外出時・歩行時にイヤホンやヘッドフォンを用いて音楽等を聴くことはありますか。 1: よくある, 2: たまにある, 3: ほとんどない, 4: まったくない
歩行時通話	あなたは、外出時・歩行時に通話をすることはありますか。 (選択肢同上)
歩行時通話の痴漢対策効力感	外出時・歩行時に通話することは、街頭（電車・バス内等を除く）での痴漢対策として有効だと思いますか。
歩行時通話の交通事故リスク	外出時・歩行時に通話することは、交通事故の危険が高いと思いますか。
痴漢の犯行者ステレオタイプ	
街頭（電車・バス内等を除く）で痴漢を行うのはどのような人物である場合が多いと思いますか。	
年代	1: 10代, 2: 20代, 3: 30代, 4: 40代, 5: 50代, 6: 60代, 7: 70代以上, 8: 年齢に偏りはない
計画性	7: とても計画的, 6: 計画的, 5: やや計画的, 4: どちらともいえない, 3: やや場当たりの, 2: 場当たりの, 1: とても場当たりの
知性	7: とても知的, 2: 知的, 3: やや知的, 4: どちらともいえない, 5: あまり知的でない, 6: 知的でない, 7: まったく知的でない
居住地域	1: 犯行現場と同じ地域に居住している, 2: 犯行現場と近隣の地域に居住している, 3: 犯行現場から遠方の地域に居住している, 4: 居住地に偏りはない
時間帯	街頭（電車・バス内等を除く）での痴漢はどのような時間帯に行われる場合がもっとも多いと思いますか。 1: 早朝, 2: 午前, 3: 午後, 4: 夕方, 5: 夜, 6: 深夜, 7: 時間帯に偏りはない

率が低い」という表現には「自分は痴漢の犯人に遭遇する確率が低い」という遭遇確率の側面と「自分は痴漢に遭遇した際に自ら被害回避できる（逃げる・撃退する）」という対処可能性の側面の両者が含まれる可能性があることから¹³、それぞれの側面について測定し関連を検証することとした。また、痴漢対策として夜間の歩行通話をするものの危険性に関する注意喚起がなされていることから^{14,15}、歩行通話の痴漢対策としての効力感や危険性の認知についても把握することとした。

Ⅲ 調査実施

1 目的

本研究は、神奈川県横浜市都筑区ならびにその周辺地区に在住する住民を対象として、居住地域の体感治安や犯罪予防に関する意識・行動の特徴を質問紙調査により明らかにするとともに、そのデータに基づいて地域の犯罪予防に関する課題抽出を行うことを目的とする。

2 調査対象者と手続き

神奈川県都筑警察署とオーケー株式会社との地域協定(2023年10月)に基づき、オーケー株式会社が運営するネットスーパー(オーケーネットスーパー)の利用客を対象としてオンライン質問紙調査を実施した。設問数が多いことと街頭犯罪(自転車盗・痴漢)は調査対象者が限定されることから、調査を2つに分割した。まず、調査1として体感治安とサイバー犯罪に関する調査を実施し、次に調査2として街頭犯罪に関する調査を実施した。調査期間は調査1が2023年12月～2024年2月、調査2が2024年2月～3月であった。これらの調査期間にネットスーパーで商品を購入した18歳以上の客に対し、購入手続き完了後に調査協力依頼画面を表示するとともに、購入した商品の配送時に調査協力依頼文書と薄謝(防犯グッズやお茶等)を同梱して募集した。なお、調査2において自転車盗に関する設問は現在自転車を所有している者を対象とし、痴漢に関する設問は10～30代の女性を対象として回答を求めた。調査1・調査2とも匿名で回答を収集した。

調査1は145名(男性32名、女性92名、その他・回答しない21名、平均年齢53.2歳、 $SD = 13.3$)から、調査2の自転車盗調査は81名(男性19名、女性57名、その他・回答しない5名、平均年齢47.7歳、 $SD = 9.5$)、痴漢調査は女性28名(平均年齢38.7歳、 $SD = 13.3$)から回答が得られた。なお、痴漢の設問において40代以上の調査参加者からの回答($n=2$)も分析対象に含めることとした。

倫理的配慮に関して、本研究の目的や内容、倫理的配慮に関する説明は調査開始前の画面に表示し、回答提出をもって同意を得たものとした。本研究は日本大学スポーツ科学部に設置された研究倫理委員会の承認を得ている(承認番号: 2023-005)。

3 調査内容

調査1では体感治安に関する設問(図表1)とサイバー犯罪に関する設問(図表2)を用いた。調査2では自転車盗に関する設問(図表3)と痴漢に関する設問(図表4)を用いた。また、両調査とも調査参加者の社会属性情報として、性別、年齢、職業、居住エリア(青葉区、港北区、都筑区、緑区、その他)、居住年数、住居形態、同居家族、自身ならびに近親者(家族や身近な人)の犯罪被害歴についてそれぞれ回答を依頼した。

4 データ解析

本調査はもともと都筑警察署の管轄である都筑区民を主たる調査対象者として実施したものであるが、オーケーネットスーパー利用者として都筑区民のみならず近隣区民等からの回答も得られた。そこでまず居住地域による意識・行動の差異について確認するため、都筑区民 ($n = 78$) と近隣区民等 ($n = 67$) とで体感治安、犯罪被害の楽観バイアス得点、防犯協力度認知、防犯効力感の各平均評定値を比較した。その結果、いずれの項目においても居住地域間で有意な差はみられなかった。そこで、以降の分析では都筑区民と近隣区民のデータをあわせて分析に用いることとした。

楽観バイアスを測定する各項目（犯罪被害、フィッシング詐欺被害、痴漢被害）については、木村他 (2023)¹⁶ を参考に7段階評定の値 (1: とても高い, ~4: 同じ程度, ~7: とても低い) から4を減じた値を楽観バイアス得点として分析に用いた。楽観バイアス得点が正の値 (最大で+3点) であれば自己リスクを他者よりも低く、負の値 (最小で-3点) であれば自己リスクを他者よりも高く評価していることを表す。

統計解析にはIBM SPSS Statistics 27を用いた。

IV 結果と考察

1 居住地域の治安や犯罪に関する意識・行動

(1) 結果

体感治安の平均評定値は5.77 ($SD = 1.05$) であった。この値について中間評価値である4を基準値とする一標本 t 検定を行ったところ、有意に基準値よりも高かった ($t(145) = 20.32, p < .001, d = 1.05$)。また、犯罪被害の楽観バイアス得点 ($M = 0.66, SD = 1.21, Md = 1.0$) について、ゼロを中央値とする一標本Wilcoxon符号順位検定を行った。その結果、楽観バイアス得点はゼロよりも有意に大きかった ($Z = 5.544, p < .001$)。

防犯協力度認知と防犯効力感に関する各項目の平均評定値を図表5に示す。各項目の評定値について、それぞれ中間評定値である4を基準値とする一標本 t 検定を行った。その結果、いずれの項目得点も有意に基準値より高いことが示された (防犯協力認知 自己: $t(145) = 13.02, p < .001, d = 1.093$, 地域住民: $t(145) = 3.55, p = .001, d = 1.190$, 警察・行政: $t(145) = 3.88, p < .001, d = 1.151$, 防犯効力感 住民パトロール: $t(145) = 12.14, p < .001, d = 1.091$, 地域美化: $t(145) = 17.27, p < .001, d = 0.987$, 防犯カメラ: $t(145) = 25.12, p < .001, d = 0.975$, 警察パトロール: $t(145) = 27.99, p < .001, d = 0.908$)。

体感治安に影響を及ぼす心理・社会属性変数を検討するため、体感治安を予測変数とし、犯罪被害の楽観バイアス得点、防犯協力度認知、性別、年齢、居住年数、同居者を説明変数とする重回帰分析 (ステップワイズ法) を行った (図表6)。なお、犯罪被害歴の有無 (自己、近親者) は調査参加者間でデータの分散がみられなかったため説明変数から除外された。分析の結果、回帰モデルは有

意であり ($F(1, 35) = 9.46, p = .004, \text{adjusted-}R^2 = .195$)、犯罪被害の楽観バイアス得点の偏回帰係数が有意であった ($\beta = .59, p = .004$)。

防犯協力度認知 (警察・行政) に防犯効力感の各項目評定値が影響を及ぼすかどうかを検討するため、防犯協力度認知 (警察・行政) を予測変数とし、防犯効力感 (住民パトロール、地域美化、防犯カメラ、警察パトロール)、性別、年齢を説明変数とする重回帰分析 (ステップワイズ法) を行った (図表 7)。分析の結果、回帰モデルは有意であり ($F(1, 59) = 17.39, p < .001, \text{adjusted-}R^2 = .217$)、地域美化に関する防犯効力感の偏回帰係数が有意であった ($\beta = .48, p < .001$)。

(2) 考察

体感治安に関して、地域内での犯罪認知件数は増加傾向にあったものの、調査参加者の居住地域に対する体感治安は全体として高かった。居住地域の安全と住民の安心が必ずしも一致していない状態といえる。体感治安に影響を及ぼす心理・社会属性要因の検討のため体感治安を予測変数とする重回帰分析を行ったところ、犯罪被害の楽観バイアス得点が正の影響を及ぼしていることが示された。犯罪被害の楽観バイアス得点も全体として高い傾向にあり、「自分も地域も大丈夫」といった楽観的認知を有している者が多いことが推察される。防犯協力度認知等は体感治安に影響を及ぼさず楽観バイアス得点のみが影響を及ぼしていることは社会安全の観点から健全な状態とはいい難く、居住地域の犯罪発生状況や防犯活動の実態等からの的確に地域の治安を推定できるよう住民に対する啓発・教育を進める必要があろう。

図表 5 防犯協力度認知と防犯効力感に関する質問項目の平均評定値 (n = 145)

	防犯協力度認知			防犯効力感			
	自己	地域住民	警察・行政	住民パトロール	地域美化	防犯カメラ	警察パトロール
<i>M</i>	5.17	4.32	4.37	5.07	5.35	6.01	6.10
<i>SD</i>	1.08	1.20	1.14	1.10	1.04	0.96	0.91

M: 平均評定値, *SD*: 標準偏差

図表 6 体感治安を予測変数とする重回帰分析の結果

説明変数 (ステップワイズ法)	β	<i>t</i>	<i>p</i>	95 % CI	
				下限	上限
犯罪被害の楽観バイアス	0.59	3.08	.004	0.20	0.98

Adjusted- $R^2 = .195, F(1, 35) = 9.46, p = .004$.

図表 7 防犯協力度認知 (警察・行政) を予測変数とする重回帰分析の結果

説明変数 (ステップワイズ法)	β	<i>t</i>	<i>p</i>	95 % CI	
				下限	上限
防犯効力感 (地域美化)	0.48	4.17	.000	0.29	0.84

Adjusted- $R^2 = .217, F(1, 59) = 17.39, p < .001$.

地域治安に関する課題抽出のため、防犯協力度認知や防犯効力感の高さについて検討したが、いずれの項目も中間評定値 (4) より高く、明確に改善が必要といえる防犯施策は見当たらなかった。そこで、警察による今後の地域防犯活動展開の参考とするため、防犯効力感を説明変数とし防犯協力度認知 (警察・行政) を予測変数とする重回帰分析を行った。その結果、地域美化に関する防犯効力感が防犯協力度認知 (警察・行政) に正の影響を及ぼすことが示された。たとえば防犯パトロール車やコンビニ防犯ボックス等の直接的な防犯活動の展開は地域住民の犯罪不安やリスク認知を高める可能性が指摘されてきた^{17,18}。そのため地域美化のような間接的な防犯活動が住民から好まれるのかもしれない。警察の企画による地域住民参加型の地域美化活動等を通じて地域の安全も安心も高める防犯活動の実践が期待される。

2 サイバー犯罪に関する防犯意識・対策行動

サイバー犯罪に関する手口知識、対策行動、情報入手メディアの各度数を図表8に示す。

サイバー犯罪の自己看破効力感 ($M = 4.72$, $SD = 1.30$, $Md = 5$) について、中間評定値である4を中央値とする一標本 Wilcoxon 符号順位検定を行った。その結果、自己看破効力感は中央値よりも有意に大きかった ($Z = 5.750$, $p < .001$)。また、フィッシング詐欺被害に関する楽観バイアス得点 ($M = 0.21$, $SD = 1.17$, $Md = 0$) について、ゼロを中央値とする一標本 Wilcoxon 符号順位検定を行った。その結果、楽観バイアス得点はゼロよりも有意に大きかった ($Z = 2.078$, $p = .038$)。なお、サイバー犯罪の自己看破効力感とフィッシング詐欺被害の楽観バイアスの相関係数は、 $r = .383$ ($p < .001$) であった。サイバー犯罪の自己看破効力感にサイバー犯罪に関する知識や対策行動が影響を及ぼすかどうかを検討するため、サイバー犯罪の自己看破効力感を予測変数とし、サイバー犯罪に関する手口知識数、情報入手メディア数、対策行動数、性別、年齢を説明変数とする重回帰分析 (ステップワイズ法) を行った (図表9)。その結果、回帰モデルは有意であり ($F(1, 59) = 8.41$, $p = .005$, $\text{adjusted-}R^2 = .112$)、手口知識数の偏回帰係数が有意であった ($\beta = .36$, $p = .005$)。

春田他 (2023)⁹ を参考に作成したフィッシング詐欺に関する知識を問う URL 正誤判断課題については、まず回答者145名のうち自由記述回答欄に選択肢以外の回答根拠 (e.g., 自分は免許を返納したから) を記載した8名については、当設問の意図が正しく伝わらなかったものと判断し分析から除外した。その上で、正規・詐欺の判断およびその根拠ともに正当した者 (正規・URL) は137名中5名 (3.6%) であった¹⁹。

サイバー犯罪の犯罪者ステレオタイプについては、性別と国籍に関しては「偏り無し」(66.9%, 73.8%)、年齢に関しては「20-30代」(53.1%) あるいは「偏り無し」(44.1%)、そして「組織的」(66.2%)、「計画的」($M = 5.70$, $SD = 1.31$)、「やや知的」($M = 4.81$, $SD = 1.29$) といった人物像を有している場合が多かった。

図表 8 サイバー犯罪に関する手口知識、対策行動、情報入手メディア (n = 145)

(1) 手口知識

	ワンクリック 詐欺	サポート 詐欺	フィッシング 詐欺	偽警告	偽通販サイト	ランサム ウェア	どれも 知らない
度数	110	43	110	94	109	54	12
%	75.9	29.7	75.9	64.8	75.2	37.2	8.3

平均手口知識数 = 3.59 (*SD* = 1.70)

(2) 対策行動

	パスワード 変更	ファイア ウォール	ソフトウェア 更新	ブロック ソフト	電話番号 検索	不審メール 開かず	その他	特にな
度数	44	46	56	40	88	125	2	7
%	30.3	31.7	38.6	27.6	60.7	86.2	1.4	4.8

平均対策行動数 = 2.77 (*SD* = 1.64)

(3) 情報入手メディア

	警察・ 自治体 HP	チラシ	新聞・雑 誌・書籍	テレビ・ ラジオ	SNS	ネット・ メール	口コミ	その他	未入手
度数	25	17	36	78	43	76	52	7	18
%	17.2	11.7	24.8	53.8	29.7	52.4	35.9	4.8	12.4

平均情報入手メディア数 = 2.30 (*SD* = 1.63)

図表 9 サイバー犯罪の自己看破効力感を予測変数とする重回帰分析の結果

説明変数 (ステップワイズ法)	β	t	p	95 % CI	
				下限	上限
手口知識数	0.36	2.90	.005	0.08	0.46

Adjusted- R^2 = .112, $F(1, 59) = 8.41$, $p = .005$.

(2) 考察

サイバー犯罪に関するリスク認知においても楽観バイアスの影響がみられた。サイバー犯罪の自己看破効力感やフィッシング詐欺被害に関する楽観バイアス得点は全体として高く、自身のサイバー犯罪被害リスクを低く推定する者が多かった。サイバー犯罪の自己看破効力感に知識や対策行動が及ぼす影響を検討したところ、手口知識数が正の影響を及ぼすものの対策行動数は影響を及ぼさないことが示された。この結果は、手口を知っていればサイバー犯罪を見破ることができることを示唆する。一般的な詐欺対策として、まずは日々多様化する手口に関する知識の入手・更新が不可欠であるものの、特殊詐欺被害者の多くは手口知識を有していたことを踏まえると²⁰、手口概要を知っているだけでは詐欺を看破できない懸念もある²¹。そこで、手口を知った上で犯人側との当初接触を避けるための具体的な対策行動をとることが不可欠である。サイバー犯罪に関する調査参加者の知識や対策行動に関しては、手口知識数が6種類中平均3.59 (*SD* = 1.70)、対策行動数が7種類中平均2.77 (*SD* = 1.64) であり (図表8)、対策行動が相対的に少ない。そこで、サイバー犯罪対策の広報・啓発に際しては、手口とあわせて具体的な対策行動を明示する等、対策行動の促進に力を入れる必要があろう。

また、フィッシング詐欺について、調査参加者の約76%は手口知識を有していると回答し、被

害リスクに対する楽観バイアスもみられた。しかし、実際にはフィッシング詐欺の知識に関する URL 正誤判断課題を完全正当した者は 3.6% と極めて少なかった。本研究では手口知識について「どのような手口の犯罪か知っているか否か」を自己報告させたのみであったが、今後はどの程度の知識を有しているかまで把握できるよう知識の確認方法を工夫する必要があるだろう。サイバー犯罪において手口知識の有無は犯罪予防の出発点として重要であり、信頼性の高い測定が求められる。

サイバー犯罪の犯罪者ステレオタイプに関して、「組織的」「計画的」「やや知的」といったステレオタイプの認知を有していることが示された。これらのステレオタイプの認知からはサイバー犯罪の犯人に対する能力の過小評価等はあまりないと推察される。一方でサイバー犯罪被害に対する楽観バイアス自体は生じていることから、サイバー犯罪における犯人に対するステレオタイプの認知とリスク認知の関連についても今後詳しく検討する必要があるだろう。

3 自転車盗に関する防犯意識・対策行動

(1) 結果

自転車の施錠行動や盗難被害対応に関する結果を図表 10 に示す。「必ず施錠する」という回答の比率は「自宅」で 84.0%、「駅の駐輪場等に長時間駐輪」で 90.1%、「スーパーやコンビニ等の駐輪場に短時間駐輪」で 86.4% であった。また、施錠しない状況については、「急いでいる時」(17.3%)、「駐輪時間が短い場合」(8.6%) 等であった。

自転車盗難被害の自己リスク認知と自転車の特徴等に関する各項目について相関分析を行ったところ、自己リスク認知は使用年数、メンテナンス頻度、防犯登録の有無といずれも有意な相関はみられなかった。自転車盗難被害の自己リスク認知と施錠行動について相関分析を行ったところ、自己リスク認知と短時間駐輪時の施錠行動に有意な相関がみられた ($r = .341, p = .002$)。自己の盗難被害リスク認知が高いほど短時間駐輪の際も施錠していることが示された。自宅や長時間駐輪時の施錠行動との間には有意な相関はみられなかった。この結果を踏まえ、短時間駐輪時の施錠行動を予測変数とし、自転車盗難被害の自己リスク認知、使用年数、メンテナンス頻度、施錠しない各状況 (ダミー変数) を説明変数とする重回帰分析 (ステップワイズ法) を行った (図表 11)。その結果、回帰モデルは有意であり ($F(2, 80) = 19.129, p = .001, \text{adjusted-}R^2 = .312$)、無施錠状況 (見通しがよい場所) と自己の盗難被害リスク認知の偏回帰係数がそれぞれ有意であった ($\beta = -.47, p < .001; \beta = .27, p = .005$)。

自転車盗難被害時の対処行動意図として、「見つかるまで探したい」は平均 5.60 ($SD = 1.46$) であり、調査参加者の 77.7% は探したい (7: とても～5: ややそう思う) と考えていた。また、「犯人を捕まえたい」は平均 5.63 ($SD = 1.56$) であり、回答者の 76.5% は犯人を捕まえたいと考えていた。一方で、「新しい自転車に買替えたい」は平均 5.23 ($SD = 1.30$) であり、回答者の 70.4% は買い替えたいと考えていた。

自転車盗の犯人ステレオタイプに関して、盗難理由については「移動して乗り捨てるため」

(67.9%)、「車体や部品を転売するため」(29.6%)が多く、「自分で所有するため」(1.2%)、「嫌がらせや気晴らしのため」(1.2%)、「自分の自転車と勘違いしたため」(0%)、「その他」(0%)はあまりなかった。犯人の性別は男性(61.7%)、年代は10～20代(計42.0%)、国籍は偏り無し(77.8%)、個人犯(61.7%)、居住地域は犯行現場の近隣地域(44.4%)、犯行時間帯は夜間であり(夜・深夜計54.3%)、あまり計画的でなく($M = 3.63$, $SD = 1.45$)、あまり知的でない($M = 3.25$, $SD = 1.27$)といった印象を有していた。

(2) 考察

自転車盗に関して、全体として調査参加者の施錠率は高いといえる。しかし、急いでいる時や買い物等での短時間の駐輪に際しては無施錠のままという回答も散見された。そこで短時間駐輪時の施錠行動に影響を及ぼす要因を検討したところ、自転車盗難被害の自己リスク認知が低く、見通しよい場所に駐輪する際に無施錠のまま駐輪しやすいことが見いだされた。見通しのよい場所は衆人監視性も高いのではといった期待に基づく行為と考えられるが、見通しのよい場所への無施錠駐輪は盗難のターゲットにもなりやすい可能性がある。無施錠に起因する自転車盗を減らす上で、見通

図表 10 自転車の施錠行動や盗難被害対応に関する回答 (n = 81)

(1) 駐輪時に「必ず施錠」

	自宅	長時間駐輪	短時間駐輪
度数	68	73	70
%	84.0	90.1	86.4

(2) 施錠しない状況

	急いでいるとき	駐輪時間が短い場合	防犯カメラがある場所	見通しがよい場所	人通りが多い場所
度数	14	7	2	1	0
%	17.3	8.6	2.5	1.2	0
	人通りが少ない場所	周囲の自転車も無施錠な場合	施錠するのが面倒なとき	その他	必ず施錠
度数	0	2	1	6	60
%	0	2.5	1.2	7.4	74.1

(3) 自転車が盗難に遭った場合の行動意図

	付近を搜索	警察に被害届出	SNS等で搜索協力呼びかけ	オークションサイト監視	その他	探さない
度数	25	73	3	6	2	4
%	30.9	90.1	3.7	7.4	2.5	4.9

図表 11 短時間駐輪時の施錠行動を予測変数とする重回帰分析の結果

説明変数 (ステップワイズ法)	β	t	p	95% CI	
				下限	上限
無施錠状況 (見通しがよい場所)	-0.47	4.97	.00	-3.65	-1.56
自己の盗難被害リスク認知	0.27	2.89	.005	0.04	0.19

Adjusted- $R^2 = .312$, $F(2, 80) = 19.23$, $p < .001$.

しよい場所への短時間駐輪における施錠行動を促すための広報・啓発活動の強化が求められる。

また、自転車盗難被害の自己リスク認知は、自転車の使用年数、メンテナンス頻度、防犯登録の有無といずれも相関はみられなかった。自転車盗難被害の自己リスク認知の高さは新車だからといった自転車の特徴と関わるものではなく、個人の認知バイアスに依存する部分が大きいものと推察される。

防犯登録の有効期限について、調査参加者 50%以上が知っていると回答した。東京都の自転車所有者を対象とした 2022 年の民間調査 (n=1,200) によると有効期限を知っている者の割合は 17.4%であったことから¹¹、防犯登録の有効期限に関する知識の普及率は比較的高いといえる。

自転車盗難被害時の対処行動意図に関して、調査参加者の多くは見つかるまで探したい・犯人を捕まえたいと考える一方で、新しい自転車に買い換えたいとも同時に考えていることが伺えた。この一見矛盾する態度については、被害自転車の発見に対する期待の低さや、自転車の即時の必要性等が影響している可能性もある。しかし、盗まれたら新しい自転車に買い替えればよいという態度は自転車の盗難防止や日頃のメンテナンスに対する意識や行動に負の影響を及ぼす懸念もあることから、今後詳細に検討する必要があるだろう。

自転車盗の犯人像としては、「夜間」「移動して乗り捨てるため」「10～20代」「犯行現場の近隣地域に住む」「男性」「あまり計画的でない」「あまり知的でない」「個人犯」といったステレオタイプの認知が抽出された。盗難理由や犯人の社会属性等は都筑警察署が把握している区内の自転車盗における被疑者の統計情報²²と概ね一致しており、調査参加者は比較的正確に犯人像を推定できているといえる。

4 街頭痴漢に関する防犯意識・対策行動

(1) 結果

痴漢被害リスクの楽観バイアス得点 ($M = 1.21$, $SD = 1.37$, $Md = 1.5$) について、ゼロを中央値とする一標本 Wilcoxon 符号順位検定を行った。その結果、痴漢被害リスクの楽観バイアス得点は中央値よりも有意に大きかった ($Z = 5.152$, $p < .001$)。また、痴漢被害リスクの楽観バイアス得点を予測変数とし、遭遇率の楽観バイアス得点と対処可能性の楽観バイアス得点を説明変数とする重回帰分析 (強制投入法) を行った (図表 12)。その結果、回帰モデルは有意であり ($F(2, 27) = 52.896$, $p < .001$, adjusted- $R^2 = .794$)、遭遇率の楽観バイアス得点の偏回帰係数が有意であった ($\beta = .89$, $p < .001$)。対処可能性の楽観バイアス得点の偏回帰係数は有意ではなかった。

日頃実践している痴漢対策行動の回答度数を図表 13 に示す。「イヤホンをしながら歩かない」(64.3%)、「夜遅く出歩かない」(57.1%)、「後ろや周囲を気にしながら歩く」(57.1%)、「人通りの少ないところは通らない」(53.6%)、「歩きスマホをしない」(46.4%)、「危ないとされているところに近づかない」(39.3%) が比較的多かった。

歩行通話の痴漢対策効力感は平均 4.18 ($SD = 1.22$) であり、回答者の 32.1%は有効 (7: とても～

5: ややそう思う) と考えていた。外出時通話の交通事故危険性認知については、平均6.00 ($SD = 0.77$) であり、回答者の96.4%は危険性があると考えていた。なお、歩行通話の痴漢対策としての効力感と交通事故危険性認知の間には有意な相関はみられなかった。

痴漢の犯罪者ステレオタイプに関して、年代は偏り無し (42.9%) あるいは40代 (28.6%)、居住地域は犯行現場の遠方 (39.3%) あるいは近隣地域 (35.7%) であり、犯行現場と同じ地域ではないという回答が多かった。また、犯人はやや計画的であり ($M = 4.86, SD = 1.53$)、あまり知的ではない ($M = 3.25, SD = 1.43$) といった印象を有している場合が多かった。なお、犯行時間は、早朝・午前 (32.1%)、夜・深夜 (39.3%)、偏りなし (25.0%) と回答の分散が大きかった。ただし、昼間・夕方の回答は少なかった (3.6%)。

(2) 考察

痴漢被害リスクに関しても自己の被害リスクを過小評価する楽観バイアスが確認された。また、痴漢被害リスクの楽観バイアスを予測変数とし遭遇率と対処可能性の楽観バイアスを説明変数とする重回帰分析を行ったところ、遭遇率のバイアスのみ有意に正の影響を及ぼした。このことから、痴漢被害リスクの楽観バイアスは「自分は痴漢の犯人に遭遇しにくい」という危機の生起確率に対する楽観視による部分が大きいことが示唆される。

夜間の歩行時における痴漢対策としての「通話をしながらの歩行」の是非に関しては賛成・反対ともあったが、約3割は有効と考えていた。通話により通話相手と状況の共有が可能となる一方で、実際には通話に注意が向くためイヤホン装着時と同様に犯行者の接近に気づきにくくなることや、たとえ通話相手が危険を察知したとしてもすぐに助けにこれるわけではないことから、女性の夜間歩行時の痴漢対策として有効とはいえない^{14,15}。また、賛成・反対に関わらずほとんどの調査

図表 12 痴漢被害リスクの楽観バイアス得点を予測変数とする重回帰分析の結果

説明変数 (強制投入法)	β	t	p	95% CI	
				下限	上限
遭遇率の楽観バイアス	0.89	9.79	.00	0.78	1.20
対処可能性の楽観バイアス	-0.03	0.28	.786	-0.22	0.17

Adjusted- $R^2 = .794, F(2, 27) = 52.90, p < .001$.

図表 13 日頃実践している痴漢対策行動 (n = 28)

	防犯ブザーを 身につける	人通りの 少ないところは 通らない	危ないところに 近づかない	夜遅く 出歩かない	夜は一人で 行動しない	夜は誰かに 迎えに来ても らう	バッグを車道 と反対側に持 つ
度数	2	15	11	16	10	5	8
%	7.1	53.6	39.3	57.1	35.7	17.9	28.6
	歩きスマホを しない	後ろや周囲を 気にしながら 歩く	イヤホンを しながら歩か ない	通話しながら 歩く	護身術を 習う	その他	特に注意して いることはない
度数	13	16	18	3	1	0	2
%	46.4	57.1	64.3	10.7	3.6	0	7.1

参加者は交通事故の観点からはこの行為は危険と考えていた。以上を踏まえ、夜間歩行時の通話の危険性について警察からも情報発信し、適切な痴漢被害防止策²³をとるよう啓発する必要があるだろう。

路上痴漢の犯行内容としては、不同意わいせつ（強制わいせつ、抱きつく等）と公然わいせつ（露出等）に大別される。犯行者ステレオタイプに関して犯行の時間帯として昼間や夕方は少なかったが、区内の公然わいせつの事件・事案に関してはこれらの時間帯も他の時間帯と比較して少なくはないことから²⁴、夜間に限らず日中においても基本的な痴漢対策（人通りの多い道を選ぶ等）²⁵を心掛けるよう周知する必要がある。

V まとめ

本研究の目的は、神奈川県横浜市都筑区ならびにその周辺地区の住民を対象とした意識調査を通じて、体感治安や地域内で増加傾向にある犯罪等に対する防犯意識・行動の実態を明らかにするとともに、それらに基づき地域の犯罪予防に関する課題を抽出することであった。調査の結果から、地域内の犯罪発生件数が増加した時期であったものの住民の体感治安は全体として高いこと、体感治安には自己の犯罪被害リスクに関する楽観バイアスが正の影響を及ぼしていることが明らかとなった。楽観バイアスはサイバー犯罪や痴漢の被害リスクに関しても頑健に確認されており、犯罪予防に関する啓発・広報を行う上で留意が必要である。また、サイバー犯罪の手口を知っていれば被害に遭わないだろうというリスク認知や、街頭犯罪に関して見通しのよい場所における無施錠駐輪、痴漢対策として通話しながら歩行する等、犯罪予防の観点から適切とはいえない認識・行動も抽出された。適切な犯罪予防行動を促すよう広報・啓発を強化する必要がある。

本調査で得られた地域住民の意識・行動傾向については前述の通り警察署協議会の場合等で報告済ではあるが、一方向的な報告・提案のみではなく今後は警察署との協議により改めて本報告・提案内容の妥当性や有効性について整理し直し、地域の犯罪予防施策に具体的に活用していくことが望まれる。

本研究の限界として、サンプルサイズの問題が挙げられる。本調査ではオーケーネットスーパー利用客に調査依頼を行ったことで都筑区とその周辺地区の住民を対象を絞り効率的に調査を実施することができた。ただし、痴漢に関しては10～30代女性に限定して回答を依頼したこともあり、約1カ月間の調査期間において回答者が28名にとどまった。条件が限定されたサンプルを調査対象とする場合には依頼周知の方法等に工夫が必要であろう。

本研究は官学協働によるエビデンスに基づく犯罪予防 (evidence-based crime prevention) のための第一段階の取組み事例といえる。本研究の成果と課題を基礎資料の1つとし、今後本学で様々な地域連携・地域貢献活動が展開され、本学の知的資源が地域の危機管理上の課題解決に資することを期待したい。

利益相反の開示について

本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

謝辞

本研究の遂行にあたり、神奈川県都筑警察署ならびにオーケー株式会社の協力を得た。また、日本大学危機管理学部の木村友香、安中恵理香、安藤加奈、石原莉理子、樋口遥、山野奈々子、大澤匠、原田翔多郎の各氏（2024年度の学生番号順に記載）は、木村敦ゼミナール所属の有志学生として本協働に参画し、活動終了まで継続的に貢献した。ここに記して御礼申し上げます。本研究の一部は、科学研究費補助金基盤研究（C）24K15624、ならびに日本大学危機管理学部令和7年度研究費の助成を受けた。

¹ 本研究の一部は令和6年度第3回神奈川県都筑警察署協議会で報告された。

² 神奈川県都筑警察署長「犯罪等に関する意識調査等に関する協力について（依頼）」（都地発3397号、令和5年9月26日）

³ オーケーネットスーパー、<https://ok-netsuper.com/>（2025年9月10日アクセス）

⁴ 参加学生の氏名は本文末の「謝辞」に掲載されている。

⁵ 本調査結果報告に対し、都筑警察署から筆者のゼミに対して感謝状が贈呈された（令和6年12月17日）。「危機管理学部・木村敦ゼミナールに神奈川県都筑警察署より感謝状が贈呈されました」、日本大学危機管理学部 ニュース、<https://www.crm.nihon-u.ac.jp/news/1174/>（2025年9月10日アクセス）

⁶ 山本功・島田貴仁（2016）「地域防犯事業が体感治安と犯罪不安に及ぼす効果の研究 ―千葉県コンビニ防犯ボックスモデル事業を事例として―」、『犯罪社会学研究』、41巻、80-97頁。

⁷ Weinstein, N. D. (1980) “Unrealistic optimism about future life events,” *Journal of Personality and Social Psychology*, Vol.39, No.5, pp.806-820.

⁸ 木村敦・齊藤知範・山根由子・島田貴仁（2023）「楽観バイアスが高齢者の特殊詐欺対策行動に及ぼす影響」、『心理学研究』、94巻、2号、120-128頁。

⁹ 春田悠佳・濱田萌・小林鈴乃・小向佳波・高木美幸・樋口匡貴（2023）「防護動機理論に基づく情報提供がフィッシング詐欺予防行動に及ぼす影響」、『上智大学心理学年報』、47号、1-15頁。

¹⁰ 岡田至雄・安藤仁朗（1994）「犯罪および犯罪者に関するイメージの研究」、『関西大学社会学部紀要』、26巻、2号、1-29頁。

¹¹ au 損保保険株式会社（2022）「東京都における自転車の盗難に関する調査：都内自転車利用者の4割以上が盗難経験あり 盗まれた自転車の約7割は施錠あり 盗難防止には補助錠などで二重ロックを」、<https://www.au-sonpo.co.jp/corporate/news/detail-300.html>（2025年9月10日アクセス）

¹² セコム株式会社（2020）「女性の『安全・安心』に関する意識調査」、https://www.secom.co.jp/corporate/release/2020/pdf_DL/nr_20200728.pdf（2025年9月10日アクセス）

¹³ 木村敦（2022）「特殊詐欺対策研究における詐欺脆弱性認知をめぐる課題についての一考察」、『危機管理学研究』、6号、98-115頁。

¹⁴ NIKKEI STYLE（2018）「夜道の電話は逆効果 痴漢や暴漢から守る4つの護身術」、<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO32506170S8A700C1000000/>（2025年9月10日アクセス）

¹⁵ 佐伯幸子（2006）「夜道を無事に自宅に帰るために」、All About、<https://allabout.co.jp/gm/gc/55805/2/>（2025年9月10日アクセス）

- ¹⁶ 木村他 (2023)、122-123 頁。
- ¹⁷ 山本・島田 (2016)、93-94 頁。
- ¹⁸ 島田貴仁・雨宮護・菊池城治 (2010)「近隣での防犯対策が市民の犯罪の知覚に与える影響 —青色防犯パトロールと犯罪発生マップを例にして—」、『犯罪社会学研究』、35 巻、132-148 頁。
- ¹⁹ ほとんどの調査参加者は正規・詐欺の判断で誤答していた (127 名, 92.7%)。正答は「正規」であったが、この種の設問が 1 つのみであったことや犯罪予防という調査主旨が要求特性として作用し、「詐欺」の選択肢に回答が偏った可能性もあることは留意する必要がある。
- ²⁰ 警察庁 (2018)「オレオレ詐欺被害者等調査の概要について」、<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/sousa/sagi.html> (2025 年 9 月 10 日アクセス)
- ²¹ 木村敦 (2025)「SNS 型投資・ロマンス詐欺の欺罔プロセスと対策に関する認知・社会心理学的考察」、『危機管理学研究』、9 号、42-56 頁、47-48 頁。
- ²² 都筑警察署から提供された「都筑区発生自転車盗被害者関連データ (暫定値) 対象期間 平成 30 年～令和 5 年」(未公開) による。
- ²³ 警察庁 (2025)「痴漢等の性犯罪被害防止対策」、<https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/higai/koramu2/koramu8.html> (2025 年 9 月 10 日アクセス)
- ²⁴ 都筑警察署から提供された「都筑区発生わいせつ事件・事案関連データ (暫定値) 対象期間 令和 4 年 1 月～令和 6 年 3 月」(未公開) による。
- ²⁵ 警視庁「防犯チェックポイント —女性のための防犯対策—」、https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/higai/koramu2/koramu8.files/josei_bohan_2025.pdf (2025 年 9 月 10 日アクセス)